

7/15

戦没者の英霊に黙とう



滝上町文化センター大会室において遺族・来賓の方々が参列し、戦没者追悼式がおごそかに執り行われました。終戦から63年の歳月が過ぎ、日本では戦争を知らない世代が大半を占めるようになってきていますが、世界ではまだ内戦やテロ行為等の悲惨な事件が後を絶ちません。私たちは、多くの戦没者の方々の尊い犠牲の上に、今日の平和が築かれたものであることを忘れず、風化させることなく次の世代へ語り継ぎ、



慰霊祭歌を奉送する武田氏

惨禍を繰り返すことのないよう平和への思いを新たにしました。式典に先立ち、滝上神社境内の忠魂碑に、町長、社会福祉協議会長、遺族会長が代表して献花を行いました。式典では、英霊73柱の戦没者名が読み上げられ黙とうを行ったあと、「戦没者慰霊の碑」に参列者全員で献花をし、戦没者のご冥福を祈り、濁川小学校長武田秀夫氏により慰霊祭歌が奉送されました。

8/4

霊園を清掃



ボランティアで心地よい汗

北海道老人クラブの「社会奉仕の日」活動として、滝上町老人クラブ連合会とことぶき専科が、滝上霊園内花壇の草取りボランティアを行いました。当日はとても暑い日でしたが、時折吹く心地よい風に助けられ、参加した70人の皆さんは一生懸命花壇をきれいにしていました。みなさんお疲れ様でした。

7/28~29

どんな作品ができるかな？



初めての陶芸づくり

わんぱく専科共催『たくみ館 陶芸教室』がたくみ館(元町)で開催されました。1日目は「成形作業」(湯飲みなどの形を作る)、2日目は「削り作業」(高台作り、厚さの調整など)を行い、参加者は慣れない手つきで悪戦苦闘の様子でしたが、先生方から色々と教わりながら自分だけの作品を一生懸命作っていました。8月下旬に色をつけ、本焼きすると完成です。

7/15

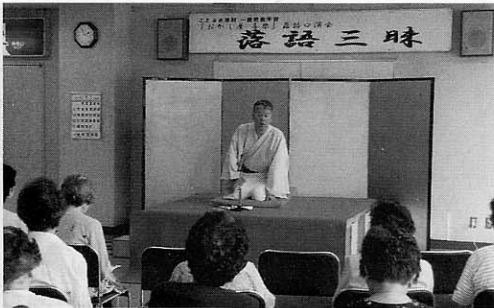
「おかし屋喜楽」の落語口演会

ことぶき専科では、一般教養学習として、「おかし屋喜楽」さんの落語口演会『落語三昧』を鑑賞しました。

「おかし屋喜楽」こと佐藤方宣（さとうまさのぶ）さんは、16歳の時に落語を始め、進学した小樽商科大学では落語研究会を結成し、学園祭やイベントなどで活躍されました。現在の本業は公務員予備校の経営（代表）をされています。

定期的な口演会を開くようになったのは昨年からです、今はなき落語研究会が創立40周年を迎えたのをきっかけに、「殺伐とした世の中だからこそ、落語を聞いて腹の底から思いつき笑って欲しい」と願いを込めながら、現在、月に1回のペースで、札幌、小樽を中心に各地へ飛び回り口演会を開催しています。そんな喜楽さんからは、落語の豆知識を教えてくださいました。『初天神』『長屋の花見』の2本の落語を聞かせていただきました。

ことぶき専科生の皆さんは、終始笑顔で「こんなに笑ったのは久しぶり。」という人も多かったようです。思いつき笑うことは健康にも良いとされています。参加したことぶき専科生は、喜楽さんからたくさん「元気」をいただきました。



思いつき笑いしました！

7/27

コンサ札幌「ジュニアサッカー教室」



ボールコントロールの練習

滝上町スポーツ公園多目的グラウンドに、コンサドーレ札幌のジュニアサッカースクールのマスタールの小亀卓也さんと、同スクールのコーチの高橋佑輔さんが来町、ジュニアサッカー教室を開催しました。このサッカー教室には、紋別市から8名、滝上町から18名の計26名が参加、快晴となったグラウンドで、味方とのコントクトの取り方や、オープンスペースの考え方といった基本的な戦術の習得や親子ミニゲームで交流を深めました。

7/27

民謡と歌謡ショー盛況に



尺八と三味線の見事な合奏を披露

文化センターで津軽三味線勝栄会主催による民謡と歌謡ショーが行われ、入場者180人が尺八と三味線など音色を満喫しました。また、オカリナ、フルート、シャクルートなどの多彩な楽器を使った笛吹コンサートや、カラオケによる歌謡ショーもありました。最後には出場者全員によるヒゲダンス、ビンゴゲームが行われ盛況のうちに終了しました。